

広報市民レポーターだより

第1回

新装なった

中央公民館を訪ねて

▶充実した設備の中で
100以上のサークルが活動▶



▲中央公民館長から話を聞く
山石レポーター(中央)と斎藤レポーター(右)

どのよう利用されているだろうか

市民レポーター 斎藤 久(片山二丁目)

情報の多様化に伴い、私たちは一人で学ぶことも、遊ぶことも出来る時代になりました。グループ学習で仲間を知り、その楽しさをより深めることができるのではないのでしょうか。新しい時代の公民館活動とは——市民レポーターとしてこの一月オープンした中央公民館を五月十四日に訪ねてみました。

社会教育の殿堂として、今年一月新築オープンした中央公民館が、その後どのような内容で利用されているのだろうか取材訪問してみました。

まず、館長の虻川さんは、「私共の事は管理することではなく、市民の方が利用しやすい場、設備を提供することである。」と基本的姿勢を示しており、オープン以来利用者が増え現在定期的に利用している学習サークル80、スポーツサークル28も、それぞれ自主的に運営されており講師のあっせん紹介等の相談に応じる以外運営には一切干渉しないことを強調していました。

伺った時、ちょうど館内では研修室、学習室において「葉草学習」「踊りのけいこ」隣接のサンアビリティーズの「ダンスの講習」などを楽しそうに学習中でしたが、他にも防音、ビデオ、照明の設備のある視聴覚室、九十畳敷きの和室もあり、結婚披露宴から講演や会議にも、多目的に使えそうな立派な内容となっていました。市民がいつでもだれでも利用できるよう「開かれている」という印象を持ちました。

ただこのような立派な設備建物を有効に活用するためのPR(公民館報など)がまだまだ不足なように思います。

例えば休日や夜間でも申し込みや問い合わせが出来ること、借り館は無料であること、サークルへの紹介もすること、私も今日初めて知りました。いずれにしろ人生八十年の時代にふさわしい充実した環境と設備の整ったこの中で、学習に、サークル活動に、多くの市民に気軽に活用してほしいと思います。

今、私たちにとって
公民館とは

市民レポーター
山石 勝子
(東台2丁目)

新装なった中央公民館、皆さんお出かけになられましたか。館長虻川氏の案内で、秋田杉をイメージした曲げわっぱラインもユニークな新公民館を見学しました。

建物もさることながら、学習グループが百八サークルもあり、三月には七千七百人の方が利用されたとのこと、始めて足を運んだ私には公民館が市民の学習の場として、しっかりと根をおろしていることを感じました。当日多くのグループの中から踊りとダンスの会の学習を拝見、皆さんとても熱心で楽しそうでした。これらのグループはほとんど自主グループと伺い

戦後、市民の文化教養の向上を目的とした感がありました。中でも展示は画期的空間、今は余り活用の機会がない由、惜しいことです。また視聴覚ホールでは、これからの季節、家族揃って室内楽の夕べ、映画会など大いに楽しめよう。そのためにも児童室はもっと工夫して利用すべきでしょう。

公民館の働きの一つ、地域住民の生涯教育を実りあるものにするため、現在のサークルはもとより市民みんなの力で底辺を広めて行きたいものです。ともあれ六億二千七百万という巨費を投じた市民の財産をサークル活動と共に次代へ引き継いで行きたいものです。館長のお話で「厳しい財政の中で建設したこの建物をマイホームと思ひ、子々孫々まで可愛がって欲しい」心すべきことです。

自分一人の楽しみをお持ちの方、公民館へ足を向けてみませんか。新しい仲間との交流の中で、もう一人の自分を発見してみませんか。

中央公民館利用方法

- ◇申込み・1カ月前から受付します。
- ◇利用時間・午前9時から午後9時30分
- ◇休館日・12月28日から1月4日
- ◇使用上の注意
 - 使用目的や内容を具体的に相談してください。
 - 使用後は室内を清掃してください。
 - 大きなゴミは持ち帰りください。

中央公民館 ☎42~4369

◆「広報市民レポートだより」は今回から毎月1日号で、6人のレポーターが独自に取材した記事を掲載していきます。